

川崎市議会議員(麻生区選出、無所属)

月本たくや

レポート【第 55 号】

月本たくやレポート編集部 〒215-0024 川崎市麻生区白鳥 2-3-2 K コーポ白鳥 103
TEL : 044-986-6010 FAX : 044-330-1563 Email : mail@tsukimoto.info



SDGsと行政サービスを考える決算審査

～持続可能な社会づくりを目指す中で、見直すべき点は速やかに見直す～

✓SDGsは映えじゃない！

SDGs（持続可能な開発目標）の認知度が上がって来ているものの、「意識高い系の人のこと」というように、「自分事」に浸透し切れていないのが実情ではないでしょうか。

SDGs 未来都市に選定された川崎市。しかしながら、川崎市が総合計画を進めていく上で、それぞれの施策ごとのSDGsのゴールを示しているものの、施策の下の事業ごとのゴールを示す例はほとんどありません。

市が進める事業がSDGsに分かりやすく関連するものを取り上げ、『何となく映え～』というような画像や動画をアップロードしている程度が川崎市のSDGsなのではないか？』という厳しいご意見も頂戴しています。

川崎市が本気でSDGsに取り組んで行くには、SDGsの目標達成に向け、総合計画がどのように寄与していくかを示し、また時には、適宜修正していく必要があると思います。

令和4年度からの第3期実施計画が始まるため、私は、SDGsの目標を施策ごとはもちろん、事業ごとに示していくべきと提案しました。総合計画では施策ごとのゴールを示していますが、市民にとって身近な一つ一つの事業でゴールを示すべきで、実施計画の中で示して、広く周知する提案を行いました。さらに、事業に関連し、事業を進める際の文書発信をする際には常にゴールを示すことで、職員の意識醸成をはかり、市民に啓発を進められます。

決算審査特別委員会総括質疑において、副市長に提案をしたところ、実施計画を示す段階でゴールを示し、私の提案が検討されることになりました。

川崎市総合計画の次期実施計画策定時に、SDGsを推進するための月本の提案

政策体系に対する具体例

政策体系
基本政策
政策
施策
事務事業

事務事業単位での、SDGsのゴールを示すことで、総合計画の見える化を図り、事業目的が明確に伝わりやすくなる。

施策ごとの大きな括りだけでなく、事務事業単位でのSDGsのゴールを示すことで、職員の意識醸成を図り、市民に実感を持ってもらう。

【出典：平成31(2019)年2月川崎市SDGs推進方針】

【出典：令和3年11月17日川崎市報道発表資料】

この例のように、広報の際にSDGsのゴールをすべての事業で示すよう、徹底することにより、職員がより自分事として、市民への啓発の機会につなげる。

✓公園のトイレ、使いますか？

5年前の国土交通省のアンケートによると、公園のトイレを使わない・ほとんど使わない人と答えた人は、女性9割、男性6割という結果がありました。

使用しない理由として、衛生面や防犯面の問題が挙げられますが、先ほどのアンケート調査に基づくと、単純計算で75%の市民がほぼ利用しない公共施設が、公園のトイレであるということになります。

渋谷区では、日本財団や民間企業と連携し、「The Tokyo Toilet」というプロジェクトで、公園を始めとした公衆トイレを有名建築家の設計により建て替え、民間が管理を行って綺麗なトイレが保たれています。このプロジェクトは、5年間の委託契約で民間による清掃が行われていますが、区が維持管理をする際はどのような対応になるか、今後について注目されることです。

そこで、代々木深町小公園トイレ（右上写真）を視察しました。見通しのいい場所に設置されていて、スケルトンなので、中に不審者がいないことを確認でき、防犯対策が施されていて、施錠すると外から見えなくなります。また、スケルトンで汚れが目立つということもあり、清掃が行き届き、綺麗な状態が保たれています。従前の公園のトイレとは異なり、親子で公園に行っても、安心して利用できるトイレです。

従前から身近な公園のネーミングライツを提案していますが、財源としてだけでなく、その命名権を購入した団体が中心となり公園をきれいに保つように努めるという意識の醸成を考えると、川崎市における公園のトイレの快適化は可能になります。

今後の公園のトイレを見直し、誰もが安心して快適に、また災害時にも活用できるトイレとして生まれ変わり、維持管理していくよう、議会で提案し、市としても見直しを検討していく旨の答弁がありました。



✓救急医療の役割分担へ

令和2年の救急車出動件数 66,951 件に対し、不搬送は 10,946 件と 16.3%を占めています。不搬送のうちの 58.4%が現場処置になっています。救急車到着後、救急救命士の対応により、症状が落ち着くというケースも多く、これが現場処置のうちの一つの要因になっています。救急車の適正利用が求められる昨今、適正利用について考え過ぎて、救急車を呼ばず、症状が悪化するということもあります。

また、不搬送のうち、今年8月がピークになったコロナ陽性者の割合が高くなった理由としては、自宅療養者への救急車出動に対し、現場処置により、搬送に至らなかったものが多かったということです。救急車の出動と緊急往診の役割分担の検討が必要になります。

令和2年中の救急出動実績から、消防局による様々な調査分析が行われます。調査結果に基づき、体調に異変を感じたときに、「医療が受けられないのではないか？」という不安につながらないように、行政・医師会・民間医療機関等が総合的に連携し、緊急時の医療提供体制の構築を目指すべきです。

救急受診ガイド (川崎市)

Web上で質問に
答えて、判断する。



救急車を呼んで
もいいのか？



救急医療 情報センター

044-739-1919



どの病院に行っ
たらいいのか
な？



※民間：夜間・休日
医療相談・緊急往診
(ファストドクター)
0120-963-393



外出できないの
に、具合悪いけど
どうしたら？



月本たくやプロフィール

昭和 53 年 大阪府豊中市生まれ。神奈川大学法学部法律学科卒業後、建築設備メーカーに就職。

川崎市長政務秘書、衆議院議員公設秘書（麻生区・国会担当）等を経て、平成 23 年より川崎市議会議員。

現在 川崎市議会議員（麻生区選出、無所属、当選 3 回） 健康福祉委員会委員

神奈川県カップ協会代表理事 NPO 法人防犯ネットワーク理事・麻生区支部長

神奈川大学川崎市宮陵会監事、三田学園同窓会東京支部幹事

川崎市麻生区男子ソフトボール連盟副会長 川崎白百合ライオンズクラブ 2017-2018 年度会長

五力田町内会地区長 麻生区白鳥在住 家族：妻（会社員） 趣味：KUBB（スウェーデン発祥のスポーツ）

月本たくや事務所

麻生区白鳥 2-3-2 Kコーポ白鳥 103

TEL 044(986)6010 FAX 044(330)1563

月本たくや

検索

